

素敵に輝け！

自分のではないけれど

校内を巡回中、3年生のAさんと「こんにちは」と挨拶をしてすれ違った後、「校長先生」と後ろから呼び止められました。「あれ、外れています」と指さされた所をみると、踊り場に飾ってある絵が額から外れ、だらしとしていました。「テープまだくつつくかな」と確かめて元どおりにすると、Aさんが「ありがとうございます」と言って行こうとしました。「えっ、ちょっと待って！」と呼び止め、「何年生の何さんですか」と確かめてAさんと知りました。「この絵はあなたのではないよね。自分のじゃないのに、お礼を言ってくれたの?」「はい」とのやり取りをしました。

お礼を言ってすぐに行こうとする姿が、ごく当然のことをしたようにさり気なくて、感心しました。教えてくれて、お礼を言ってくれたAさんに「ありがとう」です。

「ん」を「の」にするだけで

羽化した蝶を観察しているBさんに話しかけました。

「いつ蝶になったが?」「土日の間です」

「これ逃がすが?」「3匹ともぼくの蝶なので、後で逃がします」

(蝶の大きさを測ろうとしている様子を見て)「観察するのもたいへんだね」「はい」

とのやり取りがありました。短い会話でしたが、この中で感心したことがあります。それは「ぼくの蝶なので」という言葉です。最近よく使われる言葉遣いで言えば、「ぼくの蝶なんで」でしょうけれど、Bさんは「なので」と答えてくれました。「なんで」を「なので」にするだけで、正しく丁寧な言葉遣いになります。私がざっくばらんに聞いたのに、丁寧に答えてくれました。

以前、本市出身の元Jリーガーの柳沢敦選手が、インタビューで「~なので」と答えているの聞いて好感をもったのを覚えています。

「~なんで」は「~なので」を口語的に崩した言葉になります。日々の友達との会話ではともかく、相手や場に応じて正しい言葉遣いをできるようにしておきたいものですね。

伝えたい感動

朝、児童玄関から入って、「おはよう」と挨拶すると、1年のCさんから「校長先生、アサガオ咲いた」と返ってきました。「おはようございます」と返す前の第一声がこの言葉。よほど嬉しかったのでしょうか。それを聞いたDさんが「私も咲いた」。それを聞いたEさんが「私も咲いた」と続けて報告してくれました。「ほんと。よかったね」「へえ、すごいね」と伝えました。

学校にいと、既知のことでありながら感動を思い出したり新たにしたりする機会が多くあります。子供たちの感動に大いに共感できる大人でありたいと思っています。